

【気になる話題 ～動物からうつる身近な感染症について②～】

〈鳥からうつる病気〉

鳥は、家きんや愛玩動物として飼育され身近な存在になっています。今回、トリからヒトに感染する“鳥インフルエンザ”と“オウム病”について紹介します。



・鳥インフルエンザ

インフルエンザウイルスは、もともと鳥を主な宿主としています。鳥インフルエンザは症状から強毒性と弱毒性に区別され、奈良県でも養鶏場での大量死が報じられましたが、これは強毒性（高病原性）のインフルエンザによるものです。基本的に、鳥インフルエンザがトリからヒトへ（種を超えて）感染することは容易ではありません。ところが、トリからヒトに感染し体内で増殖できるようにウイルス自体が変化することがあります。さらに、ヒト同士で容易に感染するようになったものがA 香港型や、A ソ連型のいわゆる“季節性インフルエンザ”です。

現在、高病原性鳥インフルエンザは鳥類の間で留まっておりヒトへの感染は稀ですが、将来ヒトへの強い感染力を獲得することが心配されています。ただし、インフルエンザウイルスは加熱（70℃以上）すれば感染力を失います。家きん肉や卵を食べてウイルスに感染した例は、世界的にも報告されていません。

・オウム病

わが国では、推定約 300 万世帯で鳥がペットとして飼育されているといわれています。オウム病は、オウム病クラミジア（原虫）によるトリの感染症です。トリは、クラミジアに感染し保菌していても一見健康で、弱った時やヒナを育てる時期などに菌を排出しやすいと考えられています。保菌しているトリの 60%は、オウム、インコ類です。ヒトは、排泄物などの塵を吸入して感染することがあり、成人の場合は発症することが比較的によく、小児では少ないとされています。



感染予防の注意点

- ・野鳥、特に死骸には近づかない・触れない。
- ・鳥の体やフンに触れた後は、手洗いとうがいをする。
- ・飼育ゲージの清掃時にはマスクを着用する。
- ・飼育鳥や動物が野鳥と接触しないように心がける。

（感染症情報センター 記）